

〔課題名〕 酪農経営の安定向上に関する調査研究（第Ⅱ期委託実験農場）

〔報告書No.〕 101

〔研究年度〕 平成14～16年度

〔研究者〕 清水 克彦，時田 正彦，寺西 正俊，畠山 尚史，笠原 伸樹

1. 目 的

委託実験農場を選定し，3カ年を1期として，その経営動態を追いながら酪農経営改善のための資料を得るとともに，それら成果の地域への波及を目的としている。今期の目的は，農場経営の安定・向上を促進する要件や制約する要件について生産現場を主体にしたサーベイメソッドにより明らかにすることである。このような試みによって，農場を今後の地域酪農実践モデルとして位置付け，技術導入の促進や普及，地域波及効果による地域農業振興に寄与することを期待する。以下の課題を設定し，課題に沿って農場を選定した。

- 1) 集約放牧方式による高泌乳飼養の取り組み
- 2) 支援組織を活用した酪農経営の実態と発展方向
- 3) フリーストール飼養への移行をめぐる課題解決
- 4) 省力化と高度技術を取り入れた酪農経営
- 5) 府県における酪農複合経営の発展

2. 方 法

調査対象となる委託実験農場として，北海道八雲町，北海道別海町2カ所，北海道中標津町，栃木県黒磯市，岡山県勝央町の計6カ所（5課題）を選定し，地域毎に年間3回の地方運営委員会を開催し，毎年経営診断を実施した。委託実験農場の運営組織として，関係市町村，農業改良普及センター，農業協同組合または酪農専門農協，農業共済組合または民間家畜診療所，会計事務所，飼料・乳業会社などにより，地方運営委員会を設置した。地方運営委員会は委託実験農場の実態調査，営農改善計画の樹立，営農指導，営農実績の取りまとめ，その他必要な対策について検討し，当所と協力して当該農場経営の安定向上の推進に当たるものとした。

3. 成 果

1) 集約放牧方式による高泌乳飼養の取り組み

この研究は実証性が高く，適用条件の検討を通じて経営継承問題にも踏み込みながら，より農場の実態を掘り下げている。①通路とパドックの整備。特に泥濘化による衛生的改善と過密状態のクリア。②科学的分析による明確な原因の把握と改善（土壌・飼料分析，代謝プロファイルテスト）。③放牧地レイアウトには，住宅や堆肥舎など生活・環境面が決定要因であること。生活のゆとり追求（妻のチーズ工房）が，放牧導入の契機になっていること。以上の3点を技術導入の条件として結んでいる。

2) 支援組織を活用した酪農経営の実態と発展方向

この研究では農家による支援組織（TMR供給会社）の設立を通じて、外部組織の内部化が特徴的であり、TMR会社と自己経営のリンケージを検討した。①会社設立前後の比較分析（乳成分、飼料費）から有効性の実証。②支援組織の安定化条件には経営財務や乳牛飼養・衛生の実務的支援・指導といった会社のサポート機関の必要性。③飼料の均一化、ロット確保という好条件の一方、不慣れに起因する個体乳量低下の犠牲がみられた。粗飼料分析によってTMRの混合割合を微調整し、個体乳量低下のダメージをいかに抑えるかが課題であることを見出している。

3) フリーストール飼養への移行をめぐる課題解決

飼養技術が徐々にシフトしていく過程をロングタームで、経営主と後継者の意向を踏まえつつ課題に接近した。①技術移行を円滑に進めるための安楽性、快適性、効率性を目的にフリーストール飼養の具体的な設備計画を後継者に完全委託した。②乳牛の馴れを重要視して移行4年前に既存施設を改造し、TMRの自由採食を行うことでフリーストール飼養までの劇的な変化をできるだけ緩和した。③家庭事情や自給粗飼料不足の問題に直面したが、代替策を円滑に講じた。

4) 省力化と高度技術を取り入れた酪農経営

労働配分の問題と経営継承に関わる牧場設計を検討した。①家族労働の制約の中で、省力化技術による飼養管理の効率化を達成してきたが、外的要因（BSE）により繁殖管理で労働力の歪みが生じた。牛群検定の利活用、獣医師との連携、搾乳作業の集約化、雇用労働の導入で解決してきた。②経営継承を踏まえて後継者の意向に基づいた将来設計を試みた。このモデルは飼養頭数の動向がポイントである。規模の拡大と維持による個体販売収入の増大を戦略とした2パターンを検討した。後継者の経営能力、経営装備・環境を考慮して実現可能なプランを提示して、目標所得達成の条件整備を行った。

5) 府県における酪農複合経営の発展

酪農経営と肥育経営のリンケージについて、技術導入と財務会計から果敢に考察した。①十分な採算が期待できる酪農部門に飼養管理・環境改善の力点を置いた（プロファイルテスト、風速分布の測定、カウトレーナー、ません棒）。酪農飼養の改善による波及効果が肥育部門に及ぶ可能性を実証した。特に、繁殖成績の改善が複合経営の相乗効果の発揮やリスクヘッジには最優先課題であること。②地域性による不透明な肥育牛販売の実態（生体販売、販売先の単価設定）を問題視して、その解決には地域の肥育牛販売体系の確立、産地形成が必要になること。③繁殖サイクルと出荷成績の安定によって乳牛資源の効率的循環が発揮できるメカニズムを明らかにした。

4. キー・ワード

集約放牧，TMRセンター，フリーストール，省力化，経営継承，複合経営